月の輪熊は眠らない

あらすじ

南渕遼太郎（70）の住む町では冬熊の出没が相次いでいた。2月4日の朝、遼太郎は散歩に出かけたさいに熊に襲われて意識を失う。

遼太郎が目を覚ますと2月4日の朝だった。熊に襲われる前まで時間が巻き戻ったのだ。しかし遼太郎は物忘れがひどく、一連の体験を覚えておらず、再び熊に襲われてしまう。

三度2月4日の朝を迎えるも、やはり遼太郎は何も覚えていない。こうして遼太郎は何ら手を講じることなく無限ループを繰り返す。

ある時、ついに遼太郎は自分の身に異変が起こっていることに気づく。遼太郎の脳裏に2月4日の光景がよぎるも、折悪く熊に遭遇してしまう。

そこへ遼太郎の知人である久慈友幸（70）が現れ、身を挺して遼太郎を熊から守る。遼太郎を庇った友幸は熊に襲われて命を落とす。

こうして遼太郎はループから抜け出す。遼太郎はこの出来事を正夢と結論づけ、友幸への感謝を胸に刻み、長かった朝を終える。

登場人物

南渕遼太郎（70）　高齢者

久慈友幸（70）　太郎の知人

南渕杏（70）　太郎の妻

笘篠（70）　近隣住民

四條（70）　近隣住民

○住宅地・外観（朝）

屋根や道路に雪が積もっている。

眩しい朝日が雪を照りつけている。

○南渕家・寝室

南渕遼太郎（70）、布団で寝ている。

遼太郎、目を覚ます。

○同・居間

南渕杏（70）、台所で朝飯を作っている。

額に眼鏡をかけた遼太郎、食卓に座っている。

遼太郎、食卓に置かれた新聞を手に取る。

新聞の日付は２月４日。

遼太郎、手もとに置かれた眼鏡ケースを手にする。

遼太郎、眼鏡ケースを開ける。

眼鏡が入っていない。

遼太郎、辺りを見回し眼鏡を探す。

遼太郎、立ち上がる。

○同・寝室

額に眼鏡をかけた遼太郎、箪笥の上や引き出しを漁って眼鏡を探している。

○同・居間

遼太郎、台所へいく。

朝飯の支度をしている杏へ、

遼太郎「おい。俺の眼鏡は？」

杏「鏡見たら」

遼太郎「…？」

○同・洗面所

遼太郎、鏡の前に立つ。

額に眼鏡をかけた遼太郎の姿が映し出される。

遼太郎「…」

○同・居間

遼太郎、眼鏡をかけて新聞を読んでいる。

以下の新聞記事が映し出される。
「秋田市の住宅地で冬熊出没相次ぐ。
人を襲うケースも。冬眠できず凶暴化か」
と遼太郎の前にコーヒーが置かれる。
やってきた杏、
杏「（遼太郎へ）ボケにはコーヒー」
遼太郎「（むっとして）俺はボケてなどない」
杏「昨日の晩ごはん、何食べた？」
遼太郎「バカにするな。鍋焼きうどんだ」
杏「深刻だわね…」
遼太郎「（ムキになり）鍋焼きうどんだろう」
杏「カレーライス」
遼太郎「カレーライス？　嘘だ」
杏「嘘なんかついてどうすんのよ。ほんとボケちゃってんだから」
遼太郎、むっとして、立つ。

◯道

遼太郎、雪の積もった道を歩いている。
正面の民家のベランダに笘篠（70）の姿。

笘篠、スコップでベランダの雪を掻き、
階下に落としている。
そこへ四條（70）、やってくる。
笘篠の落とした雪が四條の頭上に降ってくる。
四條、ベランダの笘篠へ、
四條「（怒鳴る）バカ野郎！」
笘篠「当たっちゃった？」
四條「当たっちゃったじゃねえだろ！」
遼太郎、その様子を見ている。

× × ×

遼太郎、歩いている。
正面から久慈友幸（70）がやってくる。
友幸「お！　遼太郎さん！」
遼太郎「友幸！」
二人、立ち止まる。
友幸「遼太郎さん、散歩か？」
遼太郎「ああ」

友幸「新聞見たろ？　そこらへん人食い熊が
いるかもしんねーから気をつけてな！」
遼太郎「友幸もな！」
二人、別れる。

×　×　×

遼太郎、歩いている。
と正面にある曲り角の生け垣が揺れ、生
け垣に積もった雪が落ちる。
遼太郎「…？」
次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。
遼太郎、熊を見て、
遼太郎「（声が漏れる）ぅ、うわっ」
遼太郎、後ずさりし、尻もちをつく。
熊、遼太郎に近づく。
熊、獰猛な雄叫びをあげ、遼太郎に襲い
かかる。
遼太郎「（絶叫）」

○南渕家・寝室（朝）

遼太郎、布団で寝ている。

遼太郎、はっと目を覚ます。

○同・居間

杏、台所で朝飯を作っている。

額に眼鏡をかけた遼太郎、食卓に座っている。

遼太郎、食卓に置かれた新聞を手に取る。

新聞の日付は２月４日。

遼太郎、手もとに置かれた眼鏡ケースを手にする。

遼太郎、眼鏡ケースを開ける。

眼鏡が入っていない。

遼太郎、辺りを見回し眼鏡を探す。

遼太郎、立ち上がる。

○同・寝室

額に眼鏡をかけた遼太郎、箪笥の上や引き出しを漁って眼鏡を探している。

○同・居間

遼太郎、台所へいく。

朝飯の支度をしている杏へ、

遼太郎「おい。俺の眼鏡は？」

杏「鏡見たら」

遼太郎「…？」

○同・洗面所

遼太郎、徐ろに鏡の前に立つ。

額に眼鏡をかけた遼太郎の姿が映し出される。

遼太郎「…」

遼太郎、自分の姿をじっと見つめて…

○同・居間

遼太郎、眼鏡をかけて新聞を読んでいる。

以下の新聞記事が映し出される。

「秋田市の住宅地で冬熊出没相次ぐ。

人を襲うケースも。冬眠できず凶暴化か」

遼太郎「（記事を見て考え込む）…」

と遼太郎の前にコーヒーが置かれる。

やってきた杏、

杏「（遼太郎へ）ボケにはコーヒー」

遼太郎「（むっとして）俺はボケてなど…」

杏「昨日の晩ごはん、何食べた？」

遼太郎「…」

杏「（怪訝そうに）…何？」

遼太郎「…いや、鍋焼きうどんだ」

杏「深刻だわね…」

遼太郎「…」

○道

遼太郎、雪の積もった道を歩いている。

正面の民家のベランダに笘篠（70）の姿。

笘篠、スコップでベランダの雪を掻き、

階下に落としている。

そこへ四條（70）、やってくる。

笘篠の落とした雪が四條の頭上に降ってくる。

四條、ベランダの笘篠へ、
四條「（怒鳴る）バカ野郎！」
笘篠「当たっちゃった？」
四條「当たっちゃったじゃねえだろ！」
遼太郎、その様子を見て、
遼太郎「…」

×　×　×

遼太郎、歩いている。
正面から久慈友幸（70）がやってくる。
友幸「お！　遼太郎さん！」
遼太郎「…」
二人、立ち止まる。
友幸「遼太郎さん、散歩か？」
遼太郎「（うわの空で）…ああ」
友幸「新聞見たろ？　そこらへん人食い熊が
いるかもしんねーから気をつけてな！」
遼太郎「…」
友幸「（遼太郎を見て）…どうした？　さっき

らぼけっとして」

遼太郎「いや…」

遼太郎、歩き出す。

友幸「…？」

×　×　×

遼太郎、歩いている。

と正面にある曲り角の生け垣が揺れ、生け垣に積もった雪が落ちる。

遼太郎「…」

次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。

遼太郎、熊を見て、

遼太郎「（声が漏れる）ぅ、うわっ」

遼太郎、後ずさりし、尻もちをつく。

熊、遼太郎に近づく。

熊、獰猛な雄叫びをあげ、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○南渕家・寝室（朝）

遼太郎、布団で寝ている。

遼太郎、はっと目を覚ます。

○同・居間

杏、台所で朝飯を作っている。

額に眼鏡をかけた遼太郎、食卓に座っている。

遼太郎、食卓に置かれた新聞を手に取る。

新聞の日付は２月４日。

遼太郎、手もとに置かれた眼鏡ケースを手にする。

遼太郎、眼鏡ケースを開ける。

眼鏡が入っていない。

遼太郎、辺りを見回し眼鏡を探す。

遼太郎、立ち上がる。

○同・寝室

額に眼鏡をかけた遼太郎、箪笥の上や引き出しを漁って眼鏡を探している。

○同・居間

遼太郎、台所へいく。

朝飯の支度をしている杏へ、

遼太郎「おい。俺の眼鏡は？」

杏「鏡見たら」

遼太郎「…？」

○同・洗面所

遼太郎、徐ろに鏡の前に立つ。

額に眼鏡をかけた遼太郎の姿が映し出される。

遼太郎「…」

遼太郎、自分の姿をじっと見つめて…

○同・居間

遼太郎、眼鏡をかけて新聞を読んでいる。

以下の新聞記事が映し出される。

「秋田市の住宅地で冬熊出没相次ぐ。

人を襲うケースも。冬眠できず凶暴化か」

遼太郎「（記事を見て考え込む）…」

と遼太郎の前にコーヒーが置かれる。

やってきた杏、

杏「（遼太郎へ）ボケにはコーヒー」

遼太郎「（むっとして）俺はボケてなど…」

杏「昨日の晩ごはん、何食べた？」

遼太郎「…」

杏「（怪訝そうに）…何？」

遼太郎「…いや、鍋焼きうどんだ」

杏「深刻だわね…」

遼太郎「…」

○道

遼太郎、雪の積もった道を歩いている。

正面の民家のベランダに笘篠（70）の姿。

笘篠、スコップでベランダの雪を掻き、

階下に落としている。

そこへ四條（70）、やってくる。

笘篠の落とした雪が四條の頭上に降ってくる。

四條、ベランダの笘篠へ、
四條「（怒鳴る）バカ野郎！」
笘篠「当たっちゃった？」
四條「当たっちゃったじゃねえだろ！」
遼太郎、その様子を見て、
遼太郎「…」

×　×　×

遼太郎、歩いている。
正面から久慈友幸（70）がやってくる。
友幸「お！　遼太郎さん！」
遼太郎「…」
二人、立ち止まる。
友幸「遼太郎さん、散歩か？」
遼太郎「（うわの空で）…ああ」
友幸「新聞見たろ？　そこらへん人食い熊が
いるかもしんねーから気をつけてな！」
遼太郎「…」
友幸「（遼太郎を見て）…どうした？　さっき

らぼけっとして」

遼太郎「いや…」

遼太郎、歩き出す。

友幸「…？」

×　×　×

遼太郎、歩いている。

と正面にある曲り角の生け垣が揺れ、生け垣に積もった雪が落ちる。

遼太郎「…」

次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。

遼太郎、熊を見て、

遼太郎「（声が漏れる）ぅ、うわっ」

遼太郎、後ずさりし、尻もちをつく。

熊、遼太郎に近づく。

熊、獰猛な雄叫びをあげ、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

以下カットバック

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○道

熊、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

○南渕家・居間

遼太郎、食卓に座っている。

遼太郎「（きっぱりと）鍋焼きうどんだ」

○南渕家・居間

遼太郎「鍋焼きうどんだろう？」

○南渕家・居間

遼太郎「カレーライス？　嘘だ！」

○道

遼太郎、歩いている。

と正面にある曲り角の生け垣が揺れ、生け垣に積もった雪が落ちる。

遼太郎「…」

次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。

遼太郎、熊を見て、

遼太郎「（声が漏れる）う、うわっ」

遼太郎、後ずさりし、尻もちをつく。

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○道

遼太郎「（絶叫）」

○南渕家・寝室

遼太郎、布団で寝ている。

遼太郎、はっと目を覚ます。

○道

遼太郎、歩いている。

と正面にある曲り角の生け垣が揺れ、生け垣に積もった雪が落ちる。

遼太郎「…」

次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。

遼太郎、熊を見て、

遼太郎「（声が漏れる）う、うわっ」

遼太郎、後ずさりし、尻もちをつく。

熊、遼太郎に近づく。

熊、獰猛な雄叫びをあげ、遼太郎に襲いかかる。

遼太郎「（絶叫）」

カットバックおわり

○南渕家・寝室（朝）

遼太郎、布団で寝ている。

遼太郎、はっと目を覚ます。

○同・居間

杏、台所で朝飯を作っている。

額に眼鏡をかけた遼太郎、食卓に座っている。

遼太郎、食卓に置かれた新聞を手に取る。

新聞の日付は２月４日。

遼太郎、手もとに置かれた眼鏡ケースを手にする。

遼太郎、眼鏡ケースを開ける。

眼鏡が入っていない。

遼太郎「…」

遼太郎、立ち上がる。

○同・洗面所

遼太郎、徐ろに鏡の前に立つ。

額に眼鏡をかけた遼太郎の姿が映し出さ

れる。

遼太郎「…」

遼太郎、額から取った眼鏡をかける。

○同・居間

遼太郎、眼鏡をかけて新聞を読んでいる。

以下の新聞記事が映し出される。

「秋田市の住宅地で冬熊出没相次ぐ。

人を襲うケースも。冬眠できず凶暴化か」

遼太郎「…」

と遼太郎の前にコーヒーが置かれる。

やってきた杏、

杏「（遼太郎へ）ボケにはコーヒー」

遼太郎「…」

遼太郎、まじまじと杏を見つめる。

杏「（怪訝そうに）…何？」

遼太郎「…カレーライスか？」

杏「え」

遼太郎「…カレーライス。そうだろう？」

杏「よくわかったわね。私がいおうとしたこ

と」

遼太郎「…」

○道

遼太郎、雪の積もった道を歩いている。

正面の民家のベランダに笘篠（70）の姿。

笘篠、スコップでベランダの雪を掻き、

階下に落としている。

そこへ四條（70）、やってくる。

遼太郎「（叫ぶ）とまれ！」

四條、立ちどまる。

直後、笘篠の落とした雪が四條の眼の前

に降ってくる。

四條、ベランダの笘篠へ、

四條「（怒鳴る）バカ野郎！」

笘篠「当たっちゃった？」

四條「当たってねえけど！　危ねえだろ！」

遼太郎、その様子を見て、

遼太郎「…」

×　　×　　×

遼太郎、歩いている。

正面から久慈友幸（70）がやってくる。

友幸「お！　遼太郎さん！」

遼太郎「…」

二人、立ち止まる。

友幸「遼太郎さん、散歩か？」

遼太郎「…」

友幸「（遼太郎を見て）…どうした？　さっきらぼけっとして」

遼太郎「熊だ…熊が出るぞ…」

友幸「遼太郎さん、熊を見たのか？」

遼太郎「熊が…熊が俺を襲うのを見た…」

友幸「おい。何いってんだ。遼太郎さん、ついにボケちまつまたか」

遼太郎「ボケてなどない！」

友幸「…」

遼太郎、歩き出す。

友幸「おい！　遼太郎さん！」

×　　×　　×

遼太郎、歩いている。

遼太郎、曲り角の前で立ちどまる。

と曲り角の生け垣が揺れ、生け垣に積もった雪が落ちる。

遼太郎「…」

次の瞬間、曲り角から巨大な熊が現れる。

遼太郎「（息をのむ）これは…正夢だ…」

遼太郎、熊から目を逸らさずにゆっくりと後ずさりする。

熊、遼太郎へ近づく。

熊、獰猛な雄叫びをあげ、遼太郎に襲いかかる。

次の瞬間、遼太郎を庇うようにして友幸が躍り出てくる。

友幸、熊に襲われる。

友幸「（絶叫）」

○南渕家・寝室（朝）

遼太郎、布団で寝ている。

遼太郎、はっと目を覚ます。

○同・居間

杏、台所で朝飯を作っている。

遼太郎、眼鏡をかけて新聞を読んでいる。

新聞の日付は２月５日。

以下の新聞記事が映し出される。

「秋田市の住宅地にまた熊。

久慈友幸（70）さんが襲われて死亡」

遼太郎「…」

と遼太郎の前にコーヒーが置かれる。

やってきた杏、

杏「あなたの話が本当なら、きっと友幸さんがあなたの運命を変えてくれたのよ」

遼太郎、新聞を置き、目を閉じる。

遼太郎「友幸…ありがとう…」

（おわり）